

## FLOW LIVE

日時:11月9日(土) 15時15分~17時  
会場:お祭り広場

今年のゲストは今年でメジャーデビュー10周年を迎えるFLOWです。「FLOW THE MAX!!!」というテーマを掲げて活動中の彼らが医学祭に登場します。当日は9時より第三講義棟付近にて整理券配布を行います。

## 水本諭 LIVE

日時:11月10日(日) 11時~12時  
会場:お祭り広場

山口県出身のシンガーソングライターの水本諭が医学祭に登場します。現在、個人事務所をかまえライブ活動を中心にアーティストへの楽曲提供・CMソングの制作など、幅広く活動しており、医学祭での心あたまるライブは必見です。

## 一般公演

日時:11月9日(土) 12時~14時 (11時開場予定)  
会場:第3講義室(講義棟C)

一般講演では、ゆうメンタルクリニック代表で大ヒットマンガ「マンガで分かる心療内科」原作者のゆうきゆう先生に講演していただきます。演題は「7秒で心をつかむ技術」です。たくさんの方のお越しをお待ちしております。

## ドクターヘリ展示

日時:11月9日(土)、10日(日) 13時~15時  
会場:ヘリポート、総合研究棟1F

一昨年1月より運航開始したドクターヘリの機体展示と活動内容に関するパネル展示を行います。救急の第一線で活躍するドクターヘリの活動を見て聞いてください。当日10:00より本部テントにて整理券配布を行います。

## ドクターカー展示

日時:11月9日(土) 11時~13時  
会場:図書館前

医師が同乗して出勤する救急車であるドクターカーの展示と、救急医療で使われる器具の体験展示を行います。救急隊員の方と一緒に、ドクターカーの活動について学ぶことができます。

## コメでいから

日時:11月10日(日) 終日  
会場:医心館1階

保健学科の学生が主体となり、コメでいからを開催します。私たちコマディカルの学生が普段どのようなことをしているのか、さまざまな企画を通して知って頂けたらと思っています。たくさんの方の参加をお待ちしています。

## 救急医療体験

日時:11月9日(土)、10日(日) 終日  
会場:総合研究棟 2階

AEDや胸骨圧迫などの心肺蘇生法の講習を行います。ニーズやご都合に合わせて最短受講時間15分から個別に対応します。また、今年は医学生による二次救命処置シミュレーションも行います。初めての方も以前に講習を受けた方もいざという時のためにお気軽にお越しください。

## 骨髄バンク

日時:11月10日(日) 10時~12時・13時~15時  
会場:医心館前テント(受付)  
医心館2階視聴覚室(登録会場)

骨髄バンクパートは、医学祭2日目に医心館2階でドナー登録会を行います。医学祭を通して、1人でも多くの方が骨髄バンクを理解し、ドナー登録して下さることを願っています。興味のある方は是非お越し下さい!

## 抗体検査、エイズカフェ

日時:11月9日(土)、10日(日) 終日  
会場:医心館2階、第2講義室(講義棟A)

エイズと自分を知ろうということをテーマにエイズについての知識を広め、検査を受けることを推奨していく予定です。抗体検査では実際に無料で検査を受けることができ、エイズカフェではドーナツとジュースを用意して待っていますので気軽にお立ち寄りください!

## ジャズカフェ

日時:11月9日(土) 13時~  
会場:医心館1階

今年も私たち軽音楽部は、ジャズ演奏で医学祭に色を添えます。コーヒーを飲みながら、素敵な時間を過ごしてみませんか?皆さんが来られるのを心からお待ちしています。

## 学生バンド

日時:11月9日(土) 9時15分~12時15分  
会場:お祭り広場

学生有志のグループによるバンドのライブです。練習の成果をご覧ください。

**作品展示** 日時:11月9日(土)、10日(日) 終日  
※( )内はそれぞれの会場を記す

**医学展示(総合研究棟2F ロビー)**

今年の医学展示はドクターヘリについての展示を行います。

**美術展示(医心館2F 談話室)**

今年も美術部は、部員の作品を展示します。油絵や写真、書道など、幅広いジャンルの作品をごゆっくりお楽しみください。おいしいコーヒーもありますので、休憩にもご利用ください。

**国際医療研究会展示(医心館2F 多目的室)**

**園芸部草木染め体験(実習棟B)**

山口大学医学部  
医学科後援会  
会報 H25.11  
Vol.7



Yamaguchi University  
Faculty of Medicine

# 平成25年度 山口大学医学部医学科後援会 理事会 理事会での主な内容について

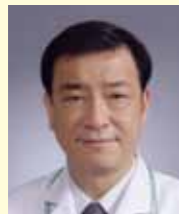
理事会の中で行われた懇談を一部抜粋して編集しています。



山口大学医学部  
医学科後援会会長  
加藤 紘 (議長)

## ◆ 会長挨拶

本日はご多用の中をお集まり下さいまして誠に有り難うございます。日頃からいろいろお心遣いを頂いておりますのに直接お目に掛れるのは一年に一度で、その意味でも本日は忌憚のないご意見を賜りたいと存じます。一般の会員の方々とはもっとお付き合いのチャンスがないのですが、幸い昨年度から医学部保護者見学会が始まりました。ご子息・ご息女の通う大学を見るというだけでなく、個人としてご覧いただいた教育や研究、医療の現場につき率直なご意見を賜り、これも今後の医学医療の発展に大変有意義と存じます。いずれにせよ皆様方のお力添えが無ければ大学の発展もないと思いますので、本日も短い時間ではありますが何卒宜しくお願い申し上げます。



山口大学医学部長・  
山口大学医学部医学科長  
坂井田 功 (顧問)

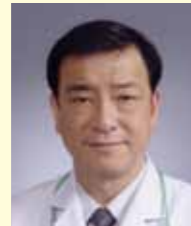
## ◆ 顧問挨拶

私の仕事はいい人材を集め、卒業だけでなく、医師国家試験に合格させないといけません。本学部の昨年度の医師国家試験の合格率は91%で、平均位ですが、もう少し上げたいと思っています。今年の6年生は医学部の経費を使って全員に模擬試験を受験させ、国家試験の合格率アップを目指しています。それから海外留学をなるべく若いうちに、学生のうちに考えており、20名近くの派遣先を探しています。また、医学教育は座学だけではなく、患者さんとのコミュニケーションを通して学ぶ臨床参加実習が重要になってきています。学生部委員、教務部委員の先生にご協力いただきながら進めています。

## 出席者



山口大学名誉教授  
加藤 紘 会長



山口大学医学部長・  
山口大学医学部医学科長  
坂井田 功 教授



山口大学医学部附属病院  
病院長  
田口 敏彦 教授



山口大学医学部医学科  
学生部委員(委員長)  
池田 栄二 教授



山口大学医学部医学科  
学生部委員(副委員長)  
鶴田 良介 教授



山口大学医学部医学科  
教務部委員(副委員長)  
大和田 祐二 教授

## 地域医療とグローバル化 について (国家試験対策、カリキュラムの変更、留学等)

### ● 坂井田顧問

今後は国家試験の問題も座学の知識だけではなく、臨床実習に即した問題が出題されるようになります。座学が大事ではないというわけではなく、基礎医学を系統的に頭に

入れておかないといけません。今はどうもばらばらのようで、基礎医学の先生方に、これから系統的に教えていただくようにします。それが臨床実習につながり、国家試験につながればと思います。

また、グローバル化が盛んに言われていますが、地域医療にも力を入れなければいけないという、相反することが全国的な流れとなっています。東京には医師会や学会、もちろん医局にも入らないという医師がたくさんいるそうです。幸い、山口県内ではそういうことはありません。できれば山口県

に残っていただけるとありがたいと思います。また、研究者が少なくなっています。すぐに医師として働きたいのは分かりますが、若いうちは、基礎研究をしっかりと身につけてほしいと思います。

グローバル化ということでは、近い将来、国家試験の10%が英語で出題されます。それに対応するために教育カリキュラムを3年がかりで変えていきます。そして、教育のシステム認証評価を2024年度に受ける予定です。



### ● 池田理事

医学部は全単位を修得しないと進級できません。去年は臨床実習の前にCBTに合格せず、進級できない学生もいました。共通教育でも全部単位をとらないと、進級できませんので、気を緩めることのないようにしてほしいと思います。

### ● 大和田理事

教務部委員の主な仕事は学生に良いカリキュラムを提供することです。国際認証制度に対応するため海外で通

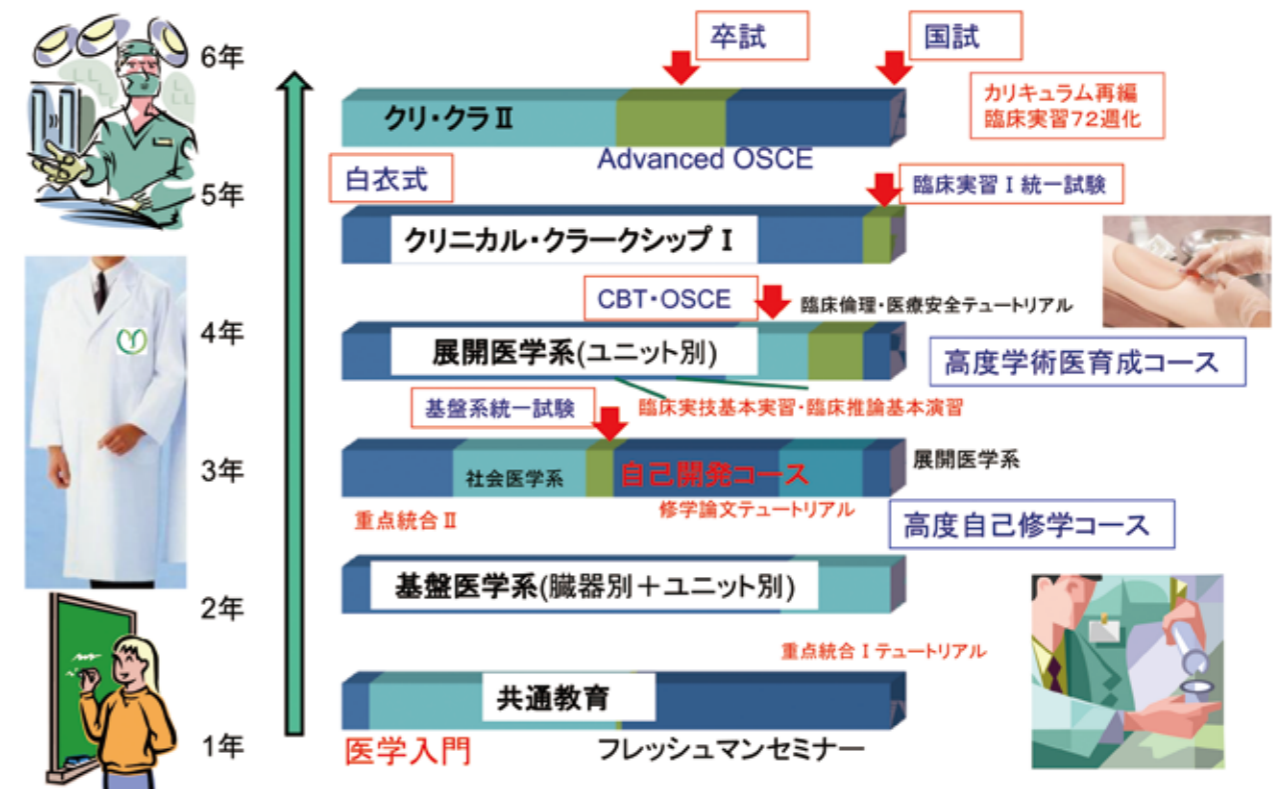
用する学生を養成するカリキュラムを作っています。その1つが医師免許をもった研究者、アカデミックドクターの養成です。在学中に研究者として自立できるように自己開発コースで多数の学生を海外に研究員として派遣しています。今年、10~15名を海外に派遣しました。中国・四国地方で学生による学会のような企画をしようとする取り組みもあります。いずれも目的は、臨床医としてではなく、さまざまなフィールドで活躍できる人材を育てたいという医学部長の思いに従い、皆で一丸となっています。

国際認証制度に対応するためには、臨床実習を72週間に増やすことが求められています。そのためには、2年生から臨床実習を開始しなければなりませんので、これからの3年間で対応するようにカリキュラムを移行させます。共通教育のカリキュラムも今年から大きく変わりましたが、学生に大きな負担とならないように対応しています。

また、国家試験の合格率を上げるため、成績の良くない学生には特別コースを設けて指導しています。



## 山口大学医学科カリキュラムのイメージ図





●田口病院長

病院の現況を説明します。山口県のがん診療連携拠点病院として、患者さんの負担にならない治療をするようにしています。ドクターヘリを導入して、県内全域から30分以内で救急患者を治療しながら搬送しています。ダヴィンチというロボット手術も取り入れました。病院経営は順調です。5年生からの臨床実習や、医療人育成センターの4部門での取り組みなどで学生と関わっています。白翔館ができて、研修医を迎える環境も整ってきています。昨年度から保護者見学会を行っており、今年度も開催したいと考えています。

●加藤議長  
カリキュラムの変更で、学生が進級しにくくなっているのですか？

●大和田理事

進級については、それほど、難しくなった訳ではありません

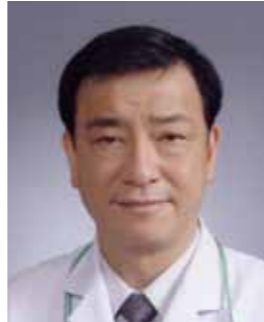
ん。共通教育の単位の取得については放送大学を利用することも可能です。

●加藤議長

CBTはどのようなものですか？国家試験が2回あるようなものですか？

●坂井田顧問

再来年から全国で統一された共用試験となります。これが大きな難関となります。国家試験とまではいきませんが、アメリカのシステムに似ています。CBT対策については検討中です。普通に勉強していれば、合格しますが孤立したりすると、あぶないと感じています。



●加藤議長

臨床実習が72週間ということですが、山口大学医学部では学生のうちに研究活動を経験していて、大学院に進学するモチベーションになるのではと考えます。臨床実習が増



えると、研究活動の機会がなくなるのではないのでしょうか？

●坂井田顧問

低学年の間に、オープンサイエンスクラブや基礎系の研究室に入ることで研究マインドを養うようにしています。

●加藤議長

医学部だけではなく、日本の基礎研究力が落ちているようです。それは大学に研究者が少なくなっているからです。特に医学部は医師になった人が研究に参加してくれるようにならないと、治らない病気はいつまでたっても治らないです。医学部の卒業生が基礎的な研究に参加するには、どうしたらいいかという議論になります。そういう状況ですから、山口大学は一步先を進んでいますね。

●坂井田顧問

全国でも、この取り組みをしている大学は5~6校です。地方大学としては珍しいと思います。基盤系の先生方の努力の賜です。

●加藤議長

留学希望者が減っていますが、どうしたのでしょうか。海外に行くのが嫌だとか、リスクを負い、そこまでしなくてもいいのではという感覚を持つ人が増えてきたということでしょうか。若いうちに留学をすることも大切だと感じます。山口大学はいいですね。自己開発コースでの取り組みはとても良いと思います。



●保護者理事

医学を進歩させるのは医学者です。加藤議長が言われるように、医学者が育っていかなければなりません。現在、医学者になるという学生が、どの程度いるのでしょうか？また、地域医療を推進するというミッションを掲げながら、かつグローバル化に対応できる研究マインドを持った研究者の育成という、その両立は非常に難しいのではないのでしょうか。世界に通用する研究を進めようとする、深い理解が必要です。その深い理解を臨床実習をしながら、限られた時間でどうしようとするのか？と感じます。



●池田理事

私の研究室の学生は、グローバル化と地域医療に貢献することが目標といます。誰が聞いても矛盾していると思われる。私は「とにかく、一度世界に飛び込め」と言っています。その経験を持ち帰ること、それが一番の地域貢献だと感じています。

●田口病院長

いい臨床医になるためには、いい研究マインドを持つことだと考えます。いい研究者がいい臨床医になるとは限りませんが、いい臨床医というのは必ず、どこかでそういう体験をしています。研究のおもしろさを教えてあげることがいい臨床医を育て、地域医療も充実すると信じています。F1で優勝するためには、そのための良いエンジンを作らなければいけません。まず基本的なエンジンを作ることができなければ、高度なエンジンは作れないということです。決して無理なことを言っているのではなく、基本的なことをやっつけていけば、必ず2つの目的は達成できると思います。

●保護者理事

何が大切かという、本人たちが興味を持つか持たないかということだと思います。教育の中でヒントを与えていただき、それが疑問だと思ふ学生がどうしたら解決できるのかということに興味を持つようやる気を出させてほしいと思います。医療現場は非常に厳しく、24時間稼働し続ける状況で余裕がないように思います。医師になってからの方向性が重要であると思います。それがグローバル化や地域医療への貢献につながっていけばと思います。先生方に臨床や研究を楽しんでできるように指導していただければ、ここで議論されている人材の確保になるのではないかと思います。

●保護者理事

私は田口病院長の言われることに大賛成です。深く臨床をやっている医師も、短期間でも研究をしている人が多いです。坂井田顧問が言われるように、大学院進学を進める姿勢を今後も続けていただきたいと思います。なるべく入局をするよう勧めさせていただいて、大学で短期間でも研究を行い、それから臨床医か研究医かを決めればよいと思います。大学のスタンスは大事だと感じます。また、最近の学生は日本語・英語が書けない人が多いです。特に日本語の読み書きができないようです。日本語の論文も日本語になっていません。これは新聞や小説を読まないからだだと思います。昔の学生はお互いに本を読みながら議論しあったりしていました。今はマニュアル化されてしまい、自分で考えて発言する機会が少なくなったと感じています。理系教育も勿論大事ですが、できれば文章を書いたり、討論しあったりというような機会を設けていただけると、うれしく思います。

●保護者理事

将来は国家試験も英語での出題があるということですが、外国人教員は何人いらっしゃるでしょうか?もちろん、学生が海外に出て行くのもいいと思いますが、出る前に、外国人の考え方や発想を知るには、全国に先駆けて、外国人教員を採用してほしいと考えます。国際的な感覚を養うことができると思います。どうすれば研究マインドを持った医師を育てられるか?ということですが、ワクワク感を感じる感性をもった人間を育てるには、おもしろいと思ったことを一生懸命やるのが大切です。それには、教員がおもしろそうにやっていること。学生の姿は私達を写す鏡だと思います。学生が基礎研究をしなくなったということは、教員が研究を楽しそうに見せていないのではないのでしょうか。後援会や教員は基礎研究をしながら、医学を楽しくやることを見せることが大事だと思いました。

●坂井田顧問

外国人教員を雇おうと思うと、日本の教授の3~4人分の費用がかかります。出て行けばかりでなく、なるべく呼びたいのですが、なかなか実現しません。なんとか頑張ってみたいと思っています。

●加藤議長

ありがとうございました。地域医療とグローバル化をどうい

ふうに折衷するのか。臨床と研究をどうするのか。学生もきつと悩んでいると思います。それに対する答えとはいかなくても、一緒に悩んで考えていただきたいです。優秀な学生さんたちですから、決して両立できないことはないと思います。大学に残っていただきたいのが本音ですし、外国に行ってもらいたいというのも本音です。知識を広げて良い医師になってもらいたいです。

## クラブ・サークル活動について

●坂井田顧問

本学部では、6年生の夏まで現役でクラブ活動やサークル活動をしているようですが、もう少し早めに引退している大学もあるようです。いつまで続けるかは、学生自身が考えることで、私達は示唆していかないといけません。勉強と両立できる学生もいますので難しいところです。クラブ活動等は人間形成には大事なものだと思います。

●加藤議長

前学部長もクラブ・サークル活動は大事だと言われていました。勉強だけではなくて、医師になるには集団生活も大事だと言われていました。その兼ね合いを学生がどのように折り合いをつけるか、それを考えてあげないといけませんね。

●主な保護者理事の意見等

- ・本人の考え次第なので、最後までやりきりたいと思っているようですから、見守るしかないと思っています。
- ・サークルを辞めてからは、いろいろな情報が入らなくなったようです。やはり何かしらサークルに入っていた方がいいのではと思います。
- ・クラブ活動で、県外に出かけたり、海外にも行っているようです。多くの友達が家に来ますし、たくさん交流しています。とても安心ですし、ありがたいと思っています。
- ・送迎バスがないときは夜中に帰ってきます。本人も、私たち親も送迎バスを出してもらうことに、とても感謝しています。是非これからも続けて欲しいと思います。
- ・クラブで遠征が多く、自家用車に学生同士が乗り合っています。とても心配です。できれば学生部委員から、公共交通機関を使うようにアドバイスをいただければと思います。

# 第69回医学祭開催にあたって

## HEART BEAT ～医心躍動～

第69回医学祭実行委員会  
委員長

五月女 悠太



●医学祭HPはこちら <http://69th-ymf.wix.com/heartbeat>



第68回医学祭風景

**日** 増しに秋気身にしみ、遠くに臨む山々が澄みきった青空に映える今日この頃、皆様方におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。常日頃から、私ども学生並びに医学祭に対し、多大なご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。多くの皆様のお力添えにより、第69回医学祭を無事開催する運びとなりましたことを、実行委員一同、深く感謝申し上げます。

**今** 年度の第69回医学祭のテーマは「HEART BEAT～医心躍動～」です。今回のテーマは、学生一人一人に医学祭に対しての情熱を持ってほしい、また医学の啓蒙活動、市民の皆様との交流を通して、医療従事者として不可欠な人と人との関係を大切にしていきたいという思いを込めてこのテーマにしました。本年度は9月からの基礎実習棟工事に伴い、初めて総合研究棟前広場での開催となります。このことにより、ステージなどのある医学祭本会場を中心としてドクターヘリ展示やドクターカー展示、医心館企画など医学祭でしか楽しめない企画をより近い範囲に集約することができ、「コンパクトな医学祭」を実現することができました。また、今年は「二次救命処置講座」と題し、医学展示と

コードオレンジによる合同新企画があります。救急の現場でどのような医療が行われているのか、普段私たち学生が教材として使用している救命処置シュミレーターを用いて、学生だけによるシュミレーションをお見せします。その他にも抗体検査や骨髄バンク、エイズ講演会など医学部でしかできない企画をご用意しております。また、毎年恒例のステージ企画では、アーティストライブで5人組の人気ミクスチャーバンド「FLOW」、宇部出身のシンガーソングライター「水本論」、お笑いライブでM-1グランプリ、THE MANZAI優勝コンビの「パンクブーブー」など超有名人が医学祭だけのスペシャルステージに登場します。学生によるミスコンやBINGOなど毎年注目の学生企画も盛り沢山となっており、医学部の各部活が出す模擬店の味を片手にお楽しみいただくと幸いです。



**最** 後になりましたが、是非会場の方にご足労いただき、私たち医学生「HEART BEAT～医心躍動～」を肌で感じてみてください。山口大学医学部の学生一同、皆様のご来場を心よりお待ちしております。